



# 家畜保健衛生所だより

R7.12.18

## 年末年始・旧正月の防疫対策の徹底について

今シーズンも高病原性鳥インフルエンザの発生が国内で相次いでいます。また、中予管内では今年、野生いのしでの豚熱感染が多くみられ、農場への侵入リスクは非常に高まっています。アフリカ豚熱と口蹄疫については近隣国を含むアジア地域に広くまん延しており、特にアフリカ豚熱は、これまで発生のなかった台湾で食品残さの給餌を原因とする発生がありました。

### ■ 高病原性鳥インフルエンザ

(R7.12.17現在)

発生状況	家畜・家きんの症状・通報のめやす
【国内家きん】今シーズン5道県7事例発生。殺処分羽数合計約196.8万羽	・死亡率が2倍以上 ・まとまとた死亡やうすくまり ・チアノーゼ(鶏冠、肉垂) ・沈うつ、産卵率の低下等
【国内野鳥・環境材料】今シーズン10道県57事例発生	

### ■ 豚熱

【国内(豚)】これまでに23都県100事例発生。ワクチン接種農場でも発生があり、ワクチンのみで発生を抑えることは困難。飼養衛生管理基準の徹底が重要 【愛媛(イノシシ)】これまでに27事例陽性確認 (中予管内では18事例)	・紫斑(耳翼、下腹部、四肢等) ・発熱(40°C以上)、元気消失、突然死 ・結膜炎(目やに) ・皮下出血、天然孔からの出血、血便 ・後軀麻痺、けいれん
--	---

### ■ アフリカ豚熱

【国外】今年10月に台湾、11月にスペインで初発生 【国内】これまでに感染確認・発生なし	豚熱と同じ
---	-------

### ■ 口蹄疫

【国外】今年3月に韓国で1年10か月ぶりに発生 【国内】2011年から「ワクチン非接種清浄国」 周辺国では発生が相次いでいるため注意が必要	・発熱(39°C以上)、起立不能 ・水泡、びらん、潰瘍等(口腔内、口唇、鼻部、蹄部、乳頭又は乳房) ・泌乳量の低下
---	---

### ■ ランピースキン病

【国外】イタリア、フランス、スペインで初発生 【国内】昨年、国内で初めてランピースキン病の確認・続発事例が確認。今年は発生なし	・皮膚の結節や水腫 ・発熱、鼻汁、食欲不振 ・泌乳量の低下
--	-------------------------------------

■ アフリカ豚熱、口蹄疫等の発生地域への海外渡航は自粛をお願いします。

■ 外国人従業員のいる施設では、肉製品等を国内に持ち込むことのないよう、指導してください。

■ 家畜の毎日の健康観察を行い、異状の早期発見・早期通報を

国際郵便物等の中に肉製品等を確認した場合は直ちに動物検疫所に連絡を！

年末年始も、飼養家畜に異状をつけたら、家畜保健衛生所への早期通報をお願いします。

中予家畜保健衛生所 TEL 089-990-1333

★携帯電話 090-6282-6129(年末年始、休日、平日夜間)